滿洲日報

清曆九月十日（つちのえ、いぬ）
●新聞代價表　一枚三錢　一ヶ月金六十錢　半ヶ年金三圓四十錢　一ヶ年金六圓五十錢　滿洲各地への郵送は郵税不申受
●廣告料　五號活字十九字詰一行一回五十錢　特別廣告は…
營口南本街　發行所　滿洲日報社　電話　編輯部一一　營業部二九
奉天大西門內　滿洲日報社支局
金州南門　滿洲日報社出張所
旅順　滿洲日報社支局
公主嶺　滿洲日報社出張所
遼陽　滿洲日報社支局
大連　滿洲日報社支局
長春城內　滿洲日報社出張所

編輯室より

門內漢

水曜日午前

●麗陽春の如き去る日曜に、均心の友二名と與に舟を遼河に泛べ流に順ふて下り候。溶々漾々たる濁水は其の永劫の行衛を彩どつて定とに壯大の感を惹さしめ候。舟に苦力四名あり、切りに友の著けたる洋服を褒め、ポケツトより友が巻煙草を取り出せば、直に氣を利かし懐より燐寸を出して献げ、舟頂泥土の狼藉たるものあれば、自ら上衣を脱して、之を御敷きなさいと言ひ、泥上に座するよりも、寧ろ御前の上衣の方が一段穢なしと諧謔すれば、吁左樣で御座いますかと徐ろに纏ふ。須臾にして、勞に破れ寒に萎へたる足指の傷を現はして、作連なる苦力に訴ふるが如く擽て貰ふ。汚たなき故其座綷は瘦せと謂へば、直に足を藏めて復た現はさず。一言一語、殆んど聲に從ふて動く。動くが如くにして而かも又た金に懸けては言語の外に超越するの性情を有るは、恐らく彼等苦力の先天的と可申候。

○予は由と彼の長羅宇の野呂馬煙管に薄青の煙が鷹揚に立ち上がるを詩的と考へ來り候。而るに實際斯の如き多忙なる苦力を覩ては、仲々詩的杯とは甚だ敷侮辱に御座候。反つて惻怛の情胸を銜き候。氣の毒なのは何處の國にても下層の民衆に有之候。

●米の陸相タフトは來期の逐鹿界に於て大統領なる事を自ら確保し、而も亦た他からも確保せられん事を孜々として努め居候。四千浬の水を渡つて日本に來り、日米問題に就きて品良き言質を置き飄然として去り申候。彼は日本に限らず到る處に斯かる外交手段を用いて甘心を買ふ可く候。果して鹿を中原に得る乎否やは未だ手に握らざるの殊に御座候。ゴルキーを迫害して竟に伊太利に追拂ひたる米人は殊に其の輕跳浮薄なる點に於て大に誡むる處莫かる可からず候。

●過日都督、總裁の二公相携へて入京したる以來、滿洲政策の統一に關して議論は諸處に起り居候。何は兎も有れ、中軸無き現在の有樣にては到底經營の目的を貫く事能はず候。宜しく速かに中心點を確立して、我滿洲駐在機關の形式及び權能の分配等に就き刷新を斷行する事肝要に御座候。

●日露兩國の大使にボウツマウスの御宿を藉して先づ双方共左樣御仰しやるな、兎角物事は平和でなければ不可ぬ。と言ひし米

大統領ルーズヴエルトは、過般イリノイス洲カイロに於て武裝的平和を主眼としたる演說をなし、海軍擴張を主張し屈辱的平和政策は一個人に非なる如く、國家にも非なりと宣言し、今後は戰闘艦隊を交互に太西洋及び太平洋に保持するの政策が十分實行せらる可き事を希望致し候。當にならぬ物は蚊帳の上の紙力と、羊羹の定規と、人間の心と、各人の宣言と、平和の保全等に御座候。

●去る四日大阪淀川中洲に在る野原廢彈工場にては職工事務員百五十餘名解彈に從事中一工女が誤つて雷管を打撲したる爲め、小銃廢彈二萬八千發を藏めたる三棟の倉庫爆發して、五十餘名の慘死者と五十餘名の重傷者を出だし候。其悽愴の狀殆んど名狀す可からず、洵に近來の慘事に御座候。

善隣時事

▲●●●●●雨宮間島問題の垂詢　聞く雨宮過日徐世昌を召され間島問題を御垂詢ありたるが徐世昌は之に答へて曰く日本が間島と稱するは吉林省所屬の夾皮溝にして土地廣濶金鑛豐富以前吉林韓效忠の所轄地にして素より我版圖に屬す當時吳大澂より榮衛圖額等を賞賜する事を乞ひ允されしことあり現今尚ほ其孫韓登舉の管理する所にして彼には同地練兵統領の職を授け置きたり然るに日本は極力經營を施し己が有と爲さんとすとは誠に不法の行動と云ふべし此種の外交問題に關して決して讓步する所なく飽く迄も強硬なる態度を以て爭はざるべからず云々雨宮之を聞き頗る御心を動し直に袁軍機を召し御垂詢あらせられたりと云ふ

▲●●●●●對日方針確定　張袁兩軍機大臣と徐總督とは朗潤園に於て東三省交涉事件に關し秘密會議を開きたるが今後日本に對する外交は強硬の態度に出づべきことを確議せりと云ふ

▲●●●●●民選議院開設期　資政院總裁孫家鼐は曾て軍機各大臣等に向ひ資政院開始の方法に付き商議する所ありしが醇親王は之に對し此章程は愼重に議定し完全無缺を期す可しと要するに憲政の初幕議院開始の基礎なれば善美を盡すにあらざれば不可なりと答べ張袁兩軍機は速かに之が組織を作り以て下議院の成立に便を與へ立憲實行の目的を達すべしと主張し各大臣も之に贊成したれば明春開設するに至る可しと云ふ

▲●●●●●張之洞と海軍問題　張之洞は海軍復興問題の屢會議に附せられたるにも拘らず尚ほ何等の端緒なし專部を設立するにあらずんば到底期し難し雨宮速に海軍專部を設け特に海軍に精しき大員を任じて該部尚書となし並に海軍成立年限を限定し以て國家の主權を保全せざるべからずと上奏したり

▲●●●●●日本大演習と陪觀員　此次清國より日本大演習陪觀員として派遣さるべきもの左の如し

哈漢章　徐紹楨　李士銳　龍天爵
劉詢　馬良　札拉芬

一人一話（八）
某將軍將校を訪ふ

▲●●●●下士制度改正急務　陸軍々隊に於ける下士制度は其成立上必須の一要素なり殊に本年より二年兵役制を實施せらるゝに於ては更に一層の良下士を必要とするの際事實は全然之に反して現在の良下士すら次第に軍隊を遠かりつゝあるの傾向あり現今の下士制度に依れば下士は（即ち伍長）兵卒として入營の日より滿三ヶ年を經過したる後ならざれば此の階級に進む能はず只補充の都合上滿二ヶ年を經過すれば伍長に任ずる事を得との特例あるも此等の事實は今日の所殆んど行はれず然れば下士志願の目的を以て入營せしものも其平時勤務の頻繁なると無味乾燥なる兵營生活とに依りて直ちに嫌惡の念を起すに至る殊に現下の下士は老後の計を立てざる可からず且其の報酬は少なくして其事務は總て獻身的なるを以て自然之が志願者を減少し現役兵すら退營の一日も早からん事を希望する有樣なり斯ては到底良下士を得る事能はず從つて之が矯正方法に就ては陸軍にても目下研究中なるも要するに其進級程度を准中尉にまで進め報酬の如きも之を增して相當慰安の道を講ぜば獻身的思想を以て長く軍に止まるの良下士を得るに至るべく此等下士出身の准將校は士官學校出身將校と比し甚だしき遜色ある事なきは戰後陸軍の經驗せし處にして要するに陸軍に於ける良下士を得んと欲せば少なくも海軍下士制度と同一の制度とならざる可らず

▲歸休兵の獎勵　二年兵役は條例となりて我が國には行はれ居らざるも歸休兵を獎勵して二年にて終役せしむることを實行し居るが此の利害は列國とも目下試驗中なり元來軍隊は共同動作を爲すものなれば兵は最下等を標準として一体に律せざるべからず軍人の動作は一の習慣によりて機敏に行はるゝなれば兵士をして機敏の働をなさしむるけ年限の長きを要するは勿論なるも亦兵士をして歸休を獎勵し軍隊の習慣の普及を力めば自然の習慣となり以て軍隊の善美を發揮するを得む乎斯くて二年兵役の實効を擧ぐるは難きにあらず

▲特命檢閲廢止不可能　近來日本內地の各新聞紙中に特命檢閲の廢止說を流布しつゝあるも特命檢閲は之を廢止する事能はざるのみならず益々之れを擴大するの必要あり檢閲は軍の能否を較し紀律を糺し軍備を精

滿洲百人物

（一四）相生由太郎

滿鐵に犬塚理事あるを知る者は其背面に相生氏あるを忘るべからず、犬塚氏は滿鐵八犬士中最も推獎に値ゐずべし、而して氏をして爾くあらしむる雄中の好參謀官は實に相生氏是れ。

彼の家甚だ貧、肴を市に賣りて父母の勞を分つ、肴籠の中に日本政記ありナショナル讀本あり、町をふれ賣りまはしつゝ書見す、市人某之を見て望を彼に囑し、資を給して學ばしむ、彼苦學數年、福岡修猷館を出で、次て高商を卒へ、三井物產に入り、終に犬塚氏に知られて滿鐵調查役たり、彼れ今ま棧橋直營の難衝に當り、一世の非難を見界引受けて、近き將來に彼れの理想を現實に踐まんことを期す、其深沈敬すべき也。

第三級圖が彼れの命に唯々として敢て背かざる、一面に於て彼れは確に親方、棟梁の資格あり、惟ふに彼れが肺腑を衝て迸しる赤誠は何人をもチャームせざれば已まざるべし、彼れの最もエラキ所ろ茲にありとす。

豪快にして屢次酒に親しむと雖も盃に至らず、扇芳亭の奥座敷に意中の佳人と相逢ふて情猪纏綿、きぬ〳〵の別れを日本橋に惜むが如き、風流亦欽すべきかな、呵々。

する上に於て必要にして且つ一般の士官をして自ら軍隊の改良進歩を工夫せしむるに付き偉大の効力を有す將來は猶ほ之を擴張して高級にも及ぼさべしと考ふ

▲●●●●戰後の軍人と著書　戰後の軍人は賜金年金等の收得に依りて幾分か驕奢の風を生ずるは各國とも同樣にして日本も此風なきにあらざるも我國の戰後に於て特に喜ぶべき現象は軍人の軍事に關する有益の著書と軍用機械の發明の續出し又發明されんとするもの數種ありて今後も猶ほ多かるべしと信ずるが之は我軍人の能力を世界に發揮せる一大名譽の事と謂はざるべからず此趨勢は尤も喜ぶべき事に屬すと云々

營口に於ける清國金融機關（其四）

一記者調查

支那に於ける固有金融機關の一般的なるものを擧ぐれば前の如くであるが、其中で當營口には如何なる名稱のものありて如何なる仕事をして居るかと云ふと、一寸即答るが困難である、何となれば前にも述べた如く、當地の商業經濟なるものは支那全般から云ふと頗る幼稚なものであるから金融機關の如きに至りても、從て小規模なもので前記のやうな分業的のものにはなつて居らぬ、一種の金融機關があらゆる金融機關を代表して其等の仕事をやつて居るやうな有樣である、のみならず其名稱に至ては頗る紛雜なもので前に擧げた所のもつと可名でありながら其內容的意義に大差ある事を見出されるのである、例へば銀爐なるものは一般から云へば馬蹄銀の鑄造が職業であるのに、當地のは錢舖もやる、公估局の仕事等もやる、又錢莊と云へば當地は甚だ小規模のもので兩替のみをやつて居つて恰かも他地方の錢舖と同一物であるなど他省を見た目で見ると一寸不思議な考の起らざるを得ない

原來金融機關なるものは何れの國に於ても主要なる商賈で有力なる地位を占むるものであるが支那にても錢業公所、典業公所の二團体の如きは經濟の發達して居る部分に於ては頗る有力且强大なものて、金融機關ではないが茶業公所及び鹽業の團体と共に四大商業團体として數へられて居る次第である、然るに營口の金融機關は商賈中に於ては有力は有力であるけれども倒底第一位の有力なる商賈とは云ふ事が出來ない、是れ滿洲は從來殖民地で住民は槪ね本部支那より移住したる人民で、就中營口に於ける有力なる商人は主として豆類の貿易に從事する比較的敏捷なる南方人である、故に當地では豆商の商人は先づ第一位に居り錢業典業の如きは第二位第三位に下らざるを得ない、加之當地の金融は豆商即ち油坊を中心として發動するものであるから自然油坊の附屬事業として經營せらるゝ情態となつて居る、然らずとするも一資本家の下に經營せらるゝ最小事業として存在する事は免れざる現象である。

快男兒

第九十一回　渡邊默禪

龜「だがコウ、俺ア眞箇に吃驚させられたぜ彼女にやア」と龜吉は懷中より手を出して頤の邊を掻きまわし　龜「眞逆彼の土藏の中に居やうたア夢にも思はなんだが、ヒヨイと見ると刄物ヶ持つて、今にも咽喉へおつ見舞え申さうてえ一件なんだらう、膽ゥ潰れるだらうぢやねえか、とて私ア、ハヽ、アこいつ阿母の菊代と棟庵に釣出されて、此處へ逃び込んで居るんだな、爾して二人が喰物に困やうと取つて寛つたのを、可厭て候ふとピンシャンと彈ねつけたソノ執柄返しに、土藏の中へガラ〳〵ピシャリと叩ッ込まれたンて、それが口惜しいから自害とお出かけなすつたンだ、イヤ犬も歩けば棒こんな所へ出會したのも天道さまのお導き拾ひ上げて物に爲ろと、お授けなすつた福だらうとは思つたが、鬱津てソレ清水のデレ助へ陷め込む所に顏を見られて居るから眞正面から出ッちゃアイ味いや、そこで灯火をフッと消して眞闇がりを幸ひ、假粧部か何かで縁切らしく持かけた狂言が當り甘々とまろめ込んで、此方の物にした俺の腕は、コウ音如何樣なもんだい」此方はニヤ〳〵と笑ひながら　金「イヤ、流石は兄だ恐れ入つたもんだ、それから私ア昨晩おめえへと相談した樣な方法でもつて、おめえのしやがらア……」とり〳〵若旦那にして了夕て、それから私ア以前の身分の輕業師で名前も蔭の金六だと名乘て聞かせたら、スツカリ其氣になつて、有難ッ御座いを何遍と無く繰返して居るぜ、まア是れでもつて十分下拵も出來たッてえものだが、此先何處へ如何して玉を轉がす心算か、兄いの手配を聞かして呉ンな　龜「ムヽ、如才なくやつて呉れて有難えや、是れから彼女を緊り込むにしても、田舍茶屋の飯盛なんぞぢやア可哀想だし、爾かと云つて吉原邊に陷め込めア、直ぐと足が付くから面白かア無え、それで私ア種々と工夫をしたンだが間の好い時は好いもので、チャシと切て欲た樣なお誂えの口が出來たんだ、些と穆つてる客だけに、直段もグッと張らッてえ事だから、此方ア開た口に牡丹餅、丸儲けのコンヽ〳〵痴氣さ　金「イヨそいつア甘え、シテ其の變つた客ッてえのは　龜「恐ッ、チヨイと耳を」と窃めき告ぐ、昔は惡僧　金「ムン偖か、奇妙頂來有難山の寒鳥だ、昨晩も思ひの外チンマリとした收入があつたから、當分は懷中手をして、ノホヽンと濟まして遊んでゐられる處へ持つて來て、おまけに彼那好ひ芽が出ちやア、ノウ兄い、是れから危い盗賊をする事もあるめえぜ、金貸せも押始めやうかい　龜「なアに惡錢は身に着かずよ、出世前の分際て、そんな素人臭みた音を吹く樣ぢやア、立派な惡黨にやなりやしねえぞ　金「アハヽ、違えねえ、ぢやア何に今日の中に姐御が、其方へ出掛けるんて　龜「俺よ、いづれ晩方には又た行掛が分るだろう前祝ひに酒でも飲つて待つて居ろ」との密談、前夜の賊こそは例の惡漢龜吉にして、その共謀者は黒夕闇の宵次一名輕業師の金と呼ぶ男、此の寺の長家を棲窟として、窃盜と土藏破とを稼業とする曲者なりき、又してもお琴は惡魔の手に握られたり、前途に横はる黒雲いまに彼の身を呑まんとする、偖て其の午後稽古へ情婦お濱は、下谷の住家を出でゝ辻駕籠を急がせ、築地に新しく設けられたる外國人居留地に至りて、四十二番館の外國人、ネップマンといへるを訪ひぬ。

▲▼新歌俳句狂歌川柳募集▲▼
○○○○○○○○○○
▲締切　期限なし　▲一回　寄稿制限なし
▲應募稿は本社編輯局文藝部宛の事

我紙は滿洲商業の唯一機關を以て任じ記事精確趣味豐富在滿邦民及び滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

大連電報

●長距離電話の開通
（十月十五日大連支社特電）

旅順大連間長距離電話二十一日より開通々話料二十五錢

●飯塚組と複線工事
蓋平熊岳城間複線工事は飯塚組と受負契約さる丶事となるべし

雜報

●長春城外巡警總局長の無責任
（兩巡警局長人物の比較）

長春巡警總局は城の内外二處に別れ城内巡警總局長景君は日本に留學し警察監獄學校の出身丈けありて警察の要務を心得居れるが故に事務の改善部下の養成其他衛生事項に關しても注意する處あり其治績稍見るに足る可き者無きにしもあらねども城外巡警總局長張氏に至つては警察官の何者たるを知らず所謂無事主義を欲する不得要領の人物と評するの外なく只夫れ日常虚位を擁し尊大自ら持するを以て能事足れりと心得事を處する頗る緩漫事故あるにあらざれば衙門に出勤すると極めて稀にして近頃支那人有識者間には兎角の評を彼に爲す者少なからずと聞く過ぐる頃我領事館の一巡査日本人の品物を窃取せし嫌疑者として某支那人を捕縛し總局に引致したるに氏は厄介物を送り來れりと言はん計りの顔色にて曰く證據不十分なる者に對し何を以て之を取調ると得ん況んや拘留する抔は絶對に不可能なりと之を受付くるを拒みたれば我警察官も餘りの挨拶に呆れ果て再び詰問して證據不十分なればこそ嫌疑者として之を引致したる次第なれば兎に角之を受付け取調ぶるこそ警官の職責にあらずやと迫りたるも氏は尙言を左右に托し更に取合はぬより我警官も已なく之を知府衙門に引致せりと此一例を以てしても氏の人物及び一般の遺口を推察するに難からざる可し將來城外に居住する同胞も益々多かる可く從て日清人間に起る事件の交涉も愈々複雜ならんとするに當り斯る無責任なる當局者に從屬する人民は不幸と謂ふべし

●馬玉昆將軍の名望
前きに黑龍江省馬賊の跳梁を極めたりしより玉昆將軍を派し毅軍十營を率ひ討伐に赴かしめしが毅軍の勇猛なる數月を出てずして江省胡匪の聲を聞かざるに至りしも彼等馬賊に馬將軍麾下の鋒鏑を避け漸次南下して吉林に入り今や吉林は馬賊の巣窟となり猛將の稱ある淮軍統領張勳の兵は數々敗北を喫し馬賊の勢力益々猖獗にして毅軍にあらずんば恐るゝに足らずとの自負心を起さしむるに至り容易に勦討の功を奏する能はざるより過日徐總督は馬將軍に打電し將軍の諾否を問合はせ且つ各軍の統領と照會し馬將軍を以て東三省土匪討伐軍隊を總管せしむることし不日奉天吉林兩巡撫の承諾を俟ちて入奏する事に決したりと云ふ

●朱巡撫の日人排斥說
朱巡撫は近來日本人の開放地點以外の地を遊歴する者に對し極力之を排斥す可く管内の地方官に訓示し爲に地方の俗吏は日本人排斥を以て能事と心得玉石混交日本人とさへ見れば護照ある遊歴者又は視察員に對し之に立退を命ずとの報頻々として到るを聞く而して若し少しく之に異議を申立つる者あれば兵力を以て強制的に立退を命じ中には兵に毆打せられ吉林巡撫の命なりと稱し吉林迄も護送せられし者もあり目下益々日本人の露領を遊歴視察する者多からんとするの今日斯の如きは事理に暗き地方愚民をして愈々日人輕侮の念を深からしめ遂には事端を惹起するの失態を演ずる所以なれば日清兩國民の交誼をして密ならしむるに急なるの場合朱巡撫の反省を待たざるべからず

●奉省支那官吏の月收
過日奉天官制の改革と共に發表せられたる官吏の俸給額は既に記載せし所なるが今又此等官吏か俸給の外に津貼と稱し我か交際費とも云ふべきもの丶確定せられ發表となりたりこれによりて見れば總督の月收は俸給と津貼と合して一万兩一ケ年十二万兩我が約十八万圓の多額に昇り巡撫は一年六万兩約九万圓參贊四万二千兩約六万圓滿鉄總裁を凌ぐと約一万圓なり今各員につき俸給及津貼の月額を示さん

官職	員數	毎員月俸	毎員津貼額	毎員月收
總督		五千兩	五千兩	一万兩
巡撫		三千兩	二千兩	五千兩
參贊	二	一千五百兩	仝	三千五百兩
提法司		一千兩	八百兩	一千八百兩
度支司		仝	仝	仝
交涉司		仝	仝	仝
民政司		仝	六百兩	一千六百兩
提學司		仝	五百兩	一千五百兩
旗務司		仝	仝	仝
道臺	二	八百兩	仝	一千三百兩
顧問官	二	二百兩	三百兩	五百兩
首科僉事	一〇	仝	仝	仝
散科僉事	二七	仝	二百兩	四百兩
議員	五	一百五十兩	仝	三百五十兩
一等科員	三九	仝	一百兩	二百五十兩
副議員	一	百兩	一百兩	二百兩
二等科員	三九	仝	五十兩	百五十兩
三等科員	七八	八十兩	三十兩	百十兩

●國防要塞の定備
我國に於ける國防要塞は日清戰役と共に頓に其擴張或は新設の必要を認め三十五年一先づ第一期計畫を終り其後更に第二期擴張計畫に着手したるが日露戰役の結果一時中止の已むなきに至りしが本年に至り再び之を續行し戰役の實驗に依り一段の改善を斷行するに決し既に重砲兵の設置重砲の改良其他の事項も亦明年度を以て全部完成する筈なりと云ふ

●旅順と要塞地帶
戰後露國の後を受けたる我旅順要塞は其後種々交涉及整理のため其地帶の警戒を空ふし殆んど開放の姿なりしも頃來漸く設備完成し又新に工事を起したるもの等あるを以て今般同地を完全なる我要塞地帶となす等にて遠からず三十二年發布の要塞地帶法を適用せらるゝこととなるべしと云ふ

●鐵嶺軍隊の引上
鐵嶺在屯第五十五聯隊は十五十八の兩日旅團司令部は十七日鐵嶺を引上ぐるとに決定したるにより鐵嶺行政委員及衛生組長は全居留民會の代表者として旅店料理店は是迄の如く一切醜業婦を出さず各店主人のみ停車場迄見送りする由因に記す昨十五日より十九日まで鐵嶺居留民一同は引上軍隊を送ると共に今回交替したる十師團の軍人を迎ふる爲め戸毎に國旗を掲げて送迎の意を表す

●露國鐵道守備兵撤退
露國は其滿洲鐵道守備兵より一箇旅團を撤退するに決し本年内には引揚を了すべく右引揚げの後は同守備兵は一基に對し十六七名となるべくポーツマス條約に依る二十名を限度とする時は一基に付三四名を減ずる筈なりと云ふ

●露國陸軍の服色改正
露國陸軍は日露戰役の經驗に依り軍服の色合を改正するの必要を感じたるが今回試驗の結果黄灰色に少しく綠色を帶びたる一種の色を採用することゝなれりといふ

●漁業條約に不滿
露國新聞の日露新條約に對する批評は其の當時外電にも散見したるが如く總体に於ては當然の成行なりとして非難する者なきも漁業條約に關しては概して不滿を懷くものゝ如しタワリスチユ新聞は新條約を批評したる後漁業條約に論及して曰く要するに漁業條約は露國戰敗の結果にして避くべからざる結果なり此條約は露國漁業家に大害を蒙らしめ日本人をしてオコツク海白令海及び其沿岸の實際の主人公たらしむるものなり尤も條約の効力は同海中三十五箇所の小入江に及ばざる事としたれども此除外は左したる價値を有するものに非ずと

●露國の專擅
吉林朱巡撫より外務部に電致したる所によれば露國委員が清露境界條約に違背し吉省三姓地方と露境伯力間の界碑を將て清國轄境一百六十方里内に擅まに移置したり願くば駐京露國と交涉し同公使より飭令して界碑を將て原處に移還せんことをと外務は已に露公使に照會したり

●間嶋への電信開通
日本政府は技師を派し韓國會寧より間島に至る電線布設を爲さしめたる由なるが過日既に落成し目下電信事務を取扱ひ居れりと吉林近信に見えたり

●伯都訥の墾務調査
伯都訥一帶の荒地に關し前に屢同處の士民より人を派して調査し費を投じて富源を開發せんとのことを度支部に請願したりしが現に同部は吉林巡撫に命じ迅に吏員を派し凡て住民荒地等の情形を勘査し開拓手段を講究して覆報すべきことを以てしたり

●滿洲經營と官制
滿洲經營は當初軍政の下に管轄せしものを文官の手に移したる者なるを以て今や其施設手續き感なきにあらざるも近頃餘程之が緒に就き南滿鐵道經營の如き工事進捗し曲りなりにも社債の成立したるを以て該鐵道經營も完成するに至るべく一方都督府は儼然滿洲經營上の一大機關として多數の文武官を包容し大島大將は之が統帥の大任に當り軍事上に於て參謀總長に外交上に於て外務大臣に隷屬して之が鐵道鑛山總ての事項を監督しつゝあるも其重任たる言ふを俟たず民政長官中村是公氏は南滿の副總裁たり官位上よりいへば都督府の重職たるも一方より見れば南滿會社の手代なり換言せば中村民政長官は監督者と被監督者を兼ねたるものなり斯くして南滿の經營を完成ならしむることを得る乎又都督府は外務大臣の下に立ちて外交事務を執り居るも常に同省派遣の領事の爲めに牛耳れ何事にても其下風に立つ有樣にて外交機關は殆んど兩方にある如く都督府よりするも領事の報告と同樣にて何等異るなし先頃の巡兵暴行事件の如き問題起れば都督府の知らざる以前に外務省は逸早く領事の報告を得たるなど不統一を來したるを以て斯く都督府官制改正を爲さんとするも無理ならぬことなり云々（東京にて某消息通談）

口酒味香味
大連には久しき以前より金看板を掲げて居る非醫者が二名ある、一は齒科醫にて他は内外科婦人科小兒科等一般の診療を爲すべく麗々敷何々醫院として入院患者迄も收容し、殊に一時は流行兒として全業者間に幅を利かしたものである▲處が壁にさへ耳ある世の中だ蛇の道は何とやら、何日か警察の聞く所となり、職掌柄捨ても措けずと醫會に公然の照會を發した▲すると醫會では、自分達の名分と其人の名譽を重んじるといへば他聞はよいけれども、實は其不明を掩ふ爲めに、當組合員中には無免許醫師は之れなく候と答へんとしたが、待て暫し、後累の共身に及ばん事を恐れ、夫れとなく綿密なる調査を遂げて報告すへしと遣て除けたので、警察の方でも其儘泣寢入と云ふ姿▲然るに齒科醫の方は醫士組合員でもないけれども、何々醫院の先生は立派な組合員だから、萬一の事ありてはと警察の祟りを怖れ、内々探偵して見るに豈圖らんやだ▲實際は叔父の免狀を携帶して居たので、當時の大連は醫師の數頗る少數で、何れも繁昌する所からツイ一時の貪慾心から金看板を掲げたる次第と別り近日醫士會より忠告を試むるとの事▲小人罪なし玉を抱いて罪ありとはコンナ先生達をいふのであらう

●大石橋居留民會解散式
大石橋居留民會解散式は再昨日午后二時より同地蟠龍山に於て擧行せられたり今其概況を記さんに同山腹の南方一帶に紅白の幔幕を張り日露征戰紀念碑前に式場を設け其下方に婦人席あり其一段下に餘興舞臺の假小屋を建て其西方に各種の模擬店開かれ設備至らざるなく委員石川松本兩氏の御骨折と察せられたり式は祝花火の相圖によりて開かれ居留民會長村上眞氏より來賓に對する丁寧なる挨拶あり次て今木獨立守備隊長は起つて左の式辭を述べ

解散式の辭

大石橋居留民會は今回滿鐵會社と交代し茲に解散式を擧行せらるゝに臨み不肖參列の光榮を得聊か一言を呈す顧みれば昨年五月我軍政署の命令に依り大石橋日本人會を組織するや村上眞外四名の諸君は之れか會長及ひ委員に擧げられ百事創設尤も困難なる狀況の内に在りて能く政署の方針を遵守し經營慘憺以て自治制度の根基樹立するに至れり次て本年四月都督より本邦人取締規則發せられて本會を居留民會と改稱するに至るや村上眞外八名の諸君は更らに之れか會長及委員に官撰せられ諸君は益々勵精事に當り公益の事業着々其歩を進め居留地の氣運日に繁榮に向ふ是れ偏へに會長及委員諸君の其人を得たるに基因せすんはあらす今や居留民會の名稱消失すと雖も其實質は存留して永遠諸君の遺功を追念せしむへし云爾

明治四十年十月十三日　獨立守備第五大隊長陸軍歩兵少佐　今木龍也

引續き滿鐵出張所の島村氏は居留民會の功勞を頌し一同乾杯して前會長井に理事の萬歳を祝し夫れより開宴となり全地選りの美形十數名酒間を縫ふて斡旋至らさるなく酒三行の頃合を見斗ひ汁粉溫飩おでんや茶席の各模擬店は一時に開店せられ思ひ〳〵に詰め掛け來る賓客を相手に委員係員の周旋周到にて何れの店も歡聲湧くが如く軈て餘興舞臺の幕はサツと撤せられ藝妓の手踊紳士連の茶番滑稽極まる博多二〇加の催しあり幕の開閉毎に喝采湧くばかり主客何れも十二分の歡を盡して仝五時頃退散したり當日の重なる來賓は

五十四聯隊將校一同　獨立守備大隊將校一同　警務署員　憲兵所員　滿鐵地方部員　保線事務所員　機關庫係員

を首め營口、大石橋驛長、新聞記者、大石橋居留民等約百五十名にして來賓よりの寄附も少なからざりき尙吾社よりは山田近藤兩名臨場したるに村上會長仝夫人其他委員諸氏より極めて慇懃なる接遇を辱うしたるは本社が深謝して已まざる所なり

●長春日本人會の發展
長春日本人會は去る六月發會式を擧げてより經費不足の爲め今日に到る迄何等の活動を見る能はざりしも爾來評議員諸氏の熱心なる盡力に依て漸く諸般の設備も完ふするに到りたれば今回城内東四道街鑛局の跡を借り受け事務所を設立し是れより漸く活躍を試みんとし既に評議員會の決議を經て在住民より會費として左の等級に分ち納税を負担せしむる旨領事館より一般に告示せり目下其收金毎月三百五十圓の豫算なり

特等十圓（正金銀行、滿鐵俱樂部、三井洋行）　一等五圓　二等三圓　三等二圓　四等一圓　五等五十錢

●居留民團役所新築棟上式
目下新築中なる當地居留民團役所は來る十八日午後二時より盛大なる棟上式を擧行する筈にて目下準備中なり

●京奉鉄道と出稼苦力
直隸山東地方より東三省に出稼する苦力は毎年約十万餘名あるが此等は春該地に赴き秋に冬籠のため郷里に歸還する例にて其往復とも京奉鉄道局は恤體のため滊車賃を輕減し普通列車の外に夜間のみ苦力輸送專用列車を差立て丶便利を謀る例なるが本年も先例に依り奉天新民より塘沽軍糧城天津まで三兩營口よりは二兩とする由なり右十月十六日より實行する筈なり

●乘車劵發賣
滿鉄左記各驛に三等通常乘車劵を設備し本年十一月一日より發賣する由

發驛	著驛
安東縣	沙河鎮、五龍背、鳳凰城、南奉天
沙河鎮	安東縣、湯山、高麗門、鷄冠山
五龍背	安東縣
湯山	沙河鎮、鳳凰城
高麗門	沙河鎮、鳳凰城
鳳凰城	高麗門、鷄冠山、安東縣、湯山
鷄冠山	沙河鎮、鳳凰城
草河	連山關、本溪湖
連山關	草河、本溪湖
橋頭	南奉天、本溪湖
本溪湖	渾河、橋頭、草河、連山關
石橋	渾河
陳相	南奉天
渾河	南奉天、石橋、本溪湖
南奉天	橋頭、渾河、安東縣、陳相

●吉省團練の刷新
由來吉省の地森林綿亘人烟稀薄にして都市村落點々相隔在し馬賊橫行奪掠を縱にし到底現在の兵數のみを以てしては神出鬼沒定りなき馬賊を勦滅する事困難なるが故に朱巡撫は各村落に獎勵して更に自治軍團を增設す可く白話文にて其方針を民間に公布せり從來の團練なる者の中或は馬賊と氣脈を通じ惡事を働き居る者少なからず又以前馬賊の頭目たりし者收賄に因て團練長の地位を得現職に居る者も少なからぬ有樣なれば朱巡撫は之に大刷新を加へ苟も不正の行爲ある者は之を革職し更に村民中より公正の適材を選び團練長に推擧し其經費は之を村民にて負擔支出せしめ官兵と相俟つて地方の安寧を計る計畫なりと

●山海關道代理の任命
天津よりの近信によれば直隸總督楊子驤は署理山海關道として候補道洗桐を任命したりとあり思ふに新任山海關道なる九江は關道臺朱恩氏の着任まで代理せしむるものなるべし

●露國通商視察員歸國
極東通商視察として來哈中なりし露國大官シーボフ氏は哈爾賓の視察を終りてより奉天省に來る筈なりしも都合ありて見合はす事となし既に歸國の途に就けりと

●鐵嶺商報の發刊
去一日鉄嶺有志者の計畫に成れる仝商報は初號を發刊し仝日龍首山上に於て發刊祝ひの宴會を催せり

●抹殺
昨紙上「稅關と小包郵便」なる題にて掲載せし事項は全然誤聞に付仝記事の全文を抹殺す

小國民の作物（六）
秋の朝　尋常四學年　末松史郎

私は朝早く起きまして、顔をあらつて庭をながめました所が草や木の葉は黄色に枯れてけしきよく、きた空がはれてつめたい風がそよそよと吹いて、大そう氣持がよーございました、それから北の方をながめますと雁が列をなして泣きながら、おもしろそーにとんで來ます、つくづく見る内にかぎのよーになつてさんで行きました、又竿などがおとなりの、き下でさへづりながらここかしこにとんでさぞ愉快そうにかんじました

筆魔墨魔
甲「オイ飢腹君、君何をボンヤリ立て見て居るんだい」乙「ヤー氣樂君か、僕は此處に廣大な建築が始つて居るから、何か知らんと眺めて居る所だ」甲「アヽ君はマダ此建物を知らんのか此は居留民團役所だよ、ソッ芝居の近所にも民團長の邸宅が立派に出來掛けて居るよ」乙「左樣かコンナ建築をドシ〳〵ヤツ始める所を以て見れば矢張此營口をドコ迄も繁昌させ樣との考は其向きにも持て居るんだね、最少しドウにか成らんと不相變の不景氣では今に人間の干物が出來るよ」甲「考があるの段かね、ソーヤ無論の事さ、君見玉へ、商賣屋でも同じ事、ね、ナンボ賣品が美事でも、第一店構が拙つた日にや繁昌する氣遣は無いよ、ソレ丈け派な邸宅に居住して、廣大な役所で執務する樣に成りさへすりや、民長も營口の繁榮策なぞ、朝飯前に遣り附けるそうだよ、君左樣案じたものじやないぜ」乙「左樣か知らんてケレドモ僕なぞは眞にヒドイよ商賣は閑なり一層當地を始末して、奥へでも出掛け樣かとも思ふけれど、今と成りては第一造作の買人は無し、掛金は集らず、左ればと云ふて此儘では迚も遣り切れはせず、行商ても始めて見樣と思ふが、君ドウだろう」甲「ソリヤ今の所一番妙策だナア、現にドノ商店ても此土地計りじや立行ぬ所から歴とした〇〇洋行でさへ各地へ行商を遣つて居るじやないか」乙「ソウ夫れじや僕も一ツ遣つて見るかねシタガ氣樂君、君は表構が大切じやと云ふけれど、見玉へ、此新市街を表通は何れも大厦高樓軒を並べては居るけれども、江戸見は何とやら、口先ばかり腹は無しで、軒先斗りて賣品は無しと云ふ實況だぜ、君夜分に表通をチト散歩でもして見玉へ、碌に点燈さへせぬ家があるじやないか（ツヾク）

□山路愛山君曰く　新聞の論說で讀んで直ぐに分るものは時事新報のと池邊君の朝日新聞なり、之に加ふるに蘇峰君の東京なりを以てし、以て解し易き文章の三幅對とすべし、今の世の中の忙がしさに一寸讀んで分らぬ樣なる新聞社說を青いて得意がる人の心は如何なるものぞ、眞に氣の知れぬとは此事なるべし

雜報

●鐵酒造の解散　滿韓酒造株式會社は去月二十九日發起人會を開き存廢に就き協議

病勢攻……し……勢猖獗なりしも寒氣迫りしと共に……も吉林及ハル……鋼又は三百ルー……たして之に違犯する者あ……警召せる石川組所屬漁船内に於……員大西峰藏なる者も亦發病せり越えて九日……老虎灘に於て發病したる青波仁六は前記……漁船と……前皆て該船に乗組み居り前文漁船の一系統に於てのみ病勢の熾んなるを見ると云ふ

社告

本日より向ふ六ヽ間奉天に於て大阪大相撲興行につき本社よりは斯道專門の記者一名を特派せり されば當日の勝負及其他の光景は極めて迅速且つ詳細に紙上に現はるべし此段愛讀者諸彥に告ぐ

十月十五日

[illegible]…定の中溫泉にても赴いて休養せんかと云ひ居れりと社友は報じ越せり

●惡熱流行　吉林黑龍一帶の地方惡熱流行の…[illegible]…しとの說多數を占め不日決行すべしといふは極…[illegible]…防疫…[illegible]…一定の防疫規約を勵行し若し市民…[illegible]…ありとて當事者…[illegible]…り就中ハルビン…[illegible]

●大連の虎列拉病近況　本…[illegible]…所附近の沿岸に隔離中本月七日午前其乘組…[illegible]…に右檢疫…[illegible]…は全く其効…[illegible]…たりし者な…[illegible]…亦彼の石川組の帳場を勤め…[illegible]…云ふ目下陸上に於ける防疫…[illegible]…したるものゝ如くなるも單…[illegible]

小説　横戀慕（二）

東京　川合柳葉作

智惠子に導かれて其室に入つた村田誠一は進められた褥の上に座りながら

「智惠子さん、此花を挿しては奈何です、成るべく枝振の宜いのを選んで持つて來たのですが……」

云ひつゝ手にした梅の枝を出せば、智惠子は其を受け取つて

「おゝ、まあ宜い薰だこと、大層美事に開いて居りますとね、どうも有難うござります、此間から梅が挿て見たいと思つて居ましたけれど、まだ何處の花屋にも蕾ばかりで、這麽美事なのはムいませんの何方でお求めなさいましたの」

村田は滿足さうに笑ひ乍ら

「そ…、私が丹精を罩めたる室の中で咲したのですから持つて來て御目に懸けたのです」

智惠子も滿足さうに。

「まあ貴方の丹精で這麽に美事に咲いたのでムりますか、其れは〳〵御大切の花を有難うムいます、早速活けまして何時迄も拜見致します」

「それでこそ花も滿足、私も持つて來た効があると云ふものです、アハヽヽ、時に今日は中將閣下は御不在ですか」

「はい、父は先刻軍令部からのお使がござりまして、直樣出がけて參りまして、まだ歸りません」

「えッ、軍令部からのお使で……然うですか、今日の日曜といふのに召びに參る所を見ると、何か緊急の會議でも開く必要が起つたと見えます、事に依つたら愈〳〵談判が破裂と決つたのかも知れませんですな」

「談判破裂と仰しやるのは、露國との談判でムいますか」

と、有繫に軍人の娘だけ、不安らしく村田の顏を永見て其答を待つのである、村田は葉卷莨に火を移しつゝ

「はい、露國と、談判です」

「では、談判が破裂致しますと、直に開戰になるのでムいますか」

「いよ〳〵破裂と云ふ事に決つて了へば、其れは直に始まるでせう」

「すると、あの……海軍の方は皆さんが御出發なさるでせうね」

貴方も出發なさるかと、問ひたさを堪へて態と他事ながらに聞く奏しさ、有繫は大和の女郎花。

「其れは開戰になつた曉には、無論陸軍よりも先きに出軍に決して居ります。

智惠子さん、實は私が今日參つたのも猶然其事が氣になるから參つたのです。私の考へては到底平和に局を結ぶ事は無いと思ふのです、若し開戰と云ふ場合になると今でこそ軍令部に居りますが、何時艦隊附に轉任するか知れないです、否、知れないぢやありません、自ら進んで轉任する決心で居ります。然うなつた曉には、敵國が敵國ですから、もう到底一命を全うして歸ると云ふとは難しい事でもあるし、自分でも國の爲に殉ずる決心で居ります。就ては豫ての縁談ですが、中將閣下は近々に式を擧げさすと云ふお話てありましたが、私は暫く見合した方がお互ひに得策と考へまして其で貴女に相談に來たのです、本來から申せば、斯うして約束の整うて居る事ではあるし、殊に公然と何處へでも一緒に行く事さへ許されて居る位ですから、一日も早く大禮を擧げたいのは豫ての希望ですが、しかし一歩退いて考へますと、容易ならない事局を前に控へて居る軀ですから、結婚は濟ました、開戰にはなつたといふ場合には、私は其が爲に後に愛情を殘して折角の勇氣が挫ける道理になります、又貴女にした處が、可惜盛の花をむざ〳〵と散らして生涯不幸の淵に沈まなければならない道理ですから、猶且結婚は一時中止した方が宜いと考へますが、貴女は何と思つて下さる。しかし勘違ひをして下さつては困りますよ、萬に一つも無事に凱旋するやうな事があれば、それは無論貴女が可厭だと仰しやつても約束を實行するのですから……」

述べ了つて、返辭如何にと、智惠子の顏を屹と視凝めた

智惠子は稍寸時無言のまゝ、膝の上に行儀正しく手を重ねて、何事か考へる樣子てあつたが、思ひ定めた如き調子で。

「父は私にも近々の內に何するかと申して居りましたが、しかしお話を承はりますと、御道理なお言葉で、それが爲に貴郞の御勇氣を挫くやうな事がありましては第一御名譽に關はる事でムいます故、目出度御凱旋遊ばすまでお待申して居ります、切望父へは貴方よりお話なすつて下さいまし」

と、雄々しくも答へたが、結婚の日を指折數へて待ちつゝありし身の、心中の悲しさは然こそと思ひやらるゝのである。兩個の話聲は折しも次の室を通りかゝつて、耳を欹てゝ密と樣子を窺ふものがある。室內の話は生憎ひたと絶えた。

●西太后（一）

▲指の陛下　西太后の御自作に成つた貴重なる贈物、それを戴いた者が大切に永く保存して置く品は陛下が卷物に筆を揮はれた書てある、書は一枚一字に限られ文字の大さ凡に約四尺に達し御筆跡は頗る美事てある、又時には樂し氣に花の繪を書かれる時がある其孰れの時を問はず陛下御指の働きは洵に敏捷に入らせられる、以前は御自身も刺繡もせられたが今日は最早これを止めて仕舞はれ繪も餘り書かれぬやうになつた陛下はとうも此頃は目が惡くなつたと仰せられるがそれでも從前は勿論今でも決して眼鏡を懸けられた例がない

▲造花の冠　滿洲貴婦人の冠には花は無くてはならぬものとなつて居るから宮中には澤山の造花がある、陛下は其造花の製作に大に心を用ゐられ御前に取り寄せて自分に檢査せられ若し出來損つたものがあるとそれを器用にキチンと役に立つやうにせられ又屢造花に新工風を凝して妙な格好に編まれたものや、小さな花を澤山集めてそれを大きな花の形にしたものなどを作られ時には馥郁たる薔薇の純白雪を欺く如き花と葉で御自分の王冠を作られ小い花をも附けてこれを寶石と見立て眞の寶石の更はりにせられる

●好角舊話（六）

扶桑生（寄）

▲又一　關の相生をば生が始めて知つたのは明治六年だと思ふ何月であつたか兵庫で黑人の大寄があつた黑人ては當時大阪で二段目虎林（前記）若林（後大關排威）素人ては州の大鳥毛、備前の三國山（後東京幕下朝川）が東西の兩大關だ、生の見物した若林と相生との顏合せて相生は一寸見た所年齡も未だ十七八て、頭髮もホンの「とんぼ」に結び褌擔ぐと一見へず、ドウシテ此小僧が若林と顏が合ふのか知らんと不思議に思ふた位て、立會に成つてから小僧容易に立たず、看客はガヤ〳〵言ひ出し中には若林其小僧を摘み出してしまへ抔と罵しるものさへあつた、トコロが氣合熟して立上つたら相四ツに渡り到々下手投で二番共若林を見事に打倒したので、アノ小僧はドエライ强ひものやナアと看客も舌を卷ひたのである、其後東京に出て幕內に附け出され追々取上げて居たのに不幸短命中道にして死去した、今更惜しい心地がする一の矢一行が或年長崎に往た折一行の中に荒飛甚太夫と云へる力士があつた元は東京の幕內で術は左程ても無つたが膂力は人に優れて居た、或日一行と共に同地の諏訪神社へ參詣した所が、社前に銅馬が寄進してある一行の中誰かゞ右の銅馬を我々仲間で抱へ揚げ得るものがあるかと云ひ出した、一の矢始め試みて見たけれ共容易に揚らぬ時に荒飛が飛んで出、此れは餘程の重量であらうが吾れならば揚げ得ぬ事は無い併し揚げ得た時には何ぞオゴルかと云ひ出した、ソコデ首尾よく抱へ上げたならば丸山を一晩オゴルと云ふ懸賞に成り、荒飛も一生懸命双腕にグイと力を込て持ち揚げた一旦持ち上げた銅馬を元の位置に復そうとした所が仲々元の通に据る事が出來ずしてらサシモの銅馬も上つたのであるケレドモ一同ガヤ〳〵喧擾で居るのを宮司が聞き付け遣つて來てシタヽカ大目玉を喰つたなどは彼等社會の大珍談として今に殘つて居る

●八旅團司令部到着　今朝上陸したる第八旅團司令部（旅團長は塚原少將）は十七日大連發鐵嶺へ向ふべし

●十一師團司令部…着　…したる第十一師團司令部（師團長…）は…日大連發遼陽へ赴く由に聞けり（十五日大連發）

●慈善相撲の好結果　大連大相撲の勸進元なる千勝館主多田仙之助氏は最後の十一日目を以て慈善興行とし總上り高より諸雜費を差引きて純益金をコレラ病に罹りて死亡せる者の遺族其他貧民に寄附せる由當日の總上り高金一百四十一圓五十錢より雜費十八圓を引き純益金一百二十二圓八十錢を得たり又同日別に寄附せし人々は六十五圓五十錢無名氏、五十圓多田仙之助氏、五圓千勝館、男連、二十圓同仲居連、十五圓角力世話人、四圓梅花、五十錢無名氏、二十五圓千勝館藝妓連、五圓扇芳亭連中、一圓同…、五十圓松山氏、五十圓弊社より、以上總計金四百五十三圓八十錢ありたりと云ふ

□食道樂會（大連）

食道樂會略して之を道樂會尙之をタメシミ會と訓ず、ここが第一回は去る十日大■扇芳亭に於て開會、會する者國澤新兵衛、相生由太郞、永井堤藏、大町豋佐、栗林已巳藏、戶田芳助、高野吉太郞、柴田虎太郞、岡田時太郞、増田英一、音羽竹鶴、有賀定吉、藤木賢次郞、中島畚木、皿田某、青木恭吉、安齋刀水等食費は二圓酒は自辨持來勝手たる等の觸れ込み扱當日の献立は

向附	あわだ　卯の花合	汁	鍋戶仕立　骰子形絹漉豆腐
盛合	鴫山椒燒　魚田燒　胡瓜胡麻酢　木からし	鉢	山かけ蒸牡蠣　さらゝ葱
茶碗盛	山鳩おぼろ　三輪素麵　短冊獨活　口　柚	中秋	茄子色甲燒　山鴫おぼろ掛
替鉢	かます　一塩　干	小皿	きぬかつぎ　ゆで栗
御飯	青豆めし　香の物　からしづけ　切つけ	菓子	林檎羹　芭蕉實　葡萄

百花園

●旅順　すじめ庵と云ふ鯖江町の小鳥屋いな料理屋の女將は小意氣な人を外さぬ腕前は流石に以前は左褄とか聞く▲つばめは面は二の町どころか三の町なれど舞は此妓の得意として俳優の三舍を避くるとは如何にや▲ひよこは大阪名所として知る人ぞ知る松島櫻筋の或る遊廓の娘だけに衣類のきこなし動作とも云ふだけ野暮なり而し藝に至りては天下一品▲からすは名前だけに朝から晩まで喋々喃々面は月と朱盆の尻くお尻は大道臼の如しとの惡口は振られ男の言草之れに反して御最負筋は藝者としてはからすに限るからすが啼かねば夜が明けぬと言ふて居る▲小鳥は余り感心した面でない今少し藝に勉强せよと御忠告申す

●樓主の特志　徳島縣徳島郡富田町二百六十番地多田マス（三三）は先頃遼陽西門外の或屋人口入所に就きて奉公口を依賴中、喘息性窒息病に罹りて困難せしかば同所の前に當れる三日月旅館主藤永某之を憫み自分の家に引取りて種々世話せしも其甲斐なく遂に死去せし故火葬にして其白骨を鄕里に送り屆けたる由特志の樓主と云ふべし

●柳樹屯藝備組の勉勵　柳樹屯て第一に目立つのは彼の藝備工業組の工事に係る兵營建築の意外に速かに進行し居ることてある同工事は着手したのが八月の下旬で僅かに一ケ月餘の間に斯くも進行して居るには並の腕前ては到底六ケしい主任名草氏を始め以下各店員が品行方正の揃ひて敢て花柳の街に歩を入れざること隨て各下請負人及各職工に至る迄て何れも工事に精勵しつゝあるからてある同地はもと僅かの軍隊目當に二三の雜貨屋と料理店が在つた位で且極めて嚴寒な處だが同工事が始まると言ふので是して一儲してやろうと各料理屋等は無理算段して新たに大連や旅順から澤山の白首連を抱へ込んで腕によりをかけてサア入らつしやいと待ち構へつゝ在つたにも拘らず大事な主人公は勿論各店員が一向振り向きもせないので各料理店などは的が外れて口あんぐりとも何とも言へぬ有樣は笑止の至りてある全体是迄各請負人と言へば何れも道樂商賣の樣に心得て酒と女と博奕と來たら何處に行つても御定まりで肝心の事業は殆んど瞞着半分で殊に滿洲等は最も此種の者が多いのに今同地の藝備組の如きは實に稀有てある（通信員報）

□當世好配偶一束

主人	夫人	主人結婚當時年齡	夫人結婚當時年齡	主人現今年齡
日比谷平左衛門	もと子	三〇	二三	六〇
本野盛亭	總子	二五	二三	七二
井上圓了	敬子	二八	二四	四九
加藤照磨	常子	二七	二一	四五
有島武	幸子	三六	二四	六六
土方久徵	まつ子	三一	二一	三八
榊順次郎	實子	二九	一五	四九
藤井佳久	眞子	二六	一八	五〇
志村源太郎	直子	二七	一九	四一
秋山定輔	眞子	三六	二一	四〇
本多靜六	せん子	二四	二六	四二
寺崎廣業	菅子	二七	二四	四二
朝吹英二	澄子	二八	一六	五九
志賀重昂	鐵千代	三二	二四	四五
鎌田榮吉	百子	二八	一七	五一
下瀬雅允	勝千代	二七	二〇	四九
落田玄達	捨子	二七	一七	五四
三浦安	卓子	二七	一五	七九
辻新次	墨子	二七	二一	六六
根津嘉一郎	久眞子	二五	一九	四八
木場貞長	小百合	二九	一七	四九
渡瀨寅次郎	かめ子	二六	二二	四七
（平均年齡）		二八、二	二〇、三	一

●滿洲のちり　●安東　三番通六丁目二番地安原武平は淸人秋景春（四五）なるものより白米の代價として受取りたる五圓紙幣の僞造なるを發見し其筋へ訴へ出てたるが秋景春は淸人魯なるものより受取りたりと云ひ魯は又淸人朱なるものより受取りたりと云ふ▲大連　昨今刑事々故非常に増加し警務課司法部は大に繁忙を極め現に留置場に在る被告人のみにて四十名に達し其內日本人十八名あり此等は多く竊盜犯にして其他は在留禁止違反僞造紙幣行使及び公安妨害者等なり▲遼陽　福住庵の亭主小島愛次郞は今度は東洋館の玉子と熟々になり夫婦約束まで出來たりと▲奉天　愛知縣生れの小嶋玉次郎は十間房に一家を構へ內縁の妻をも有し先々月以來大倉土木組の請負に係る停車場前陸軍兵舍建築の下請を爲し居りしが該工事も先月末竣工したれば大倉組より七百三十圓を受取り其儘何れいか高飛せり然るに其部下に使用せし日本大工十七人及び淸國苦力五十人は右玉次郎より一厘の支給も受けず何れも靑なり直に其筋に届出たり

諸國物語

▲大阪東區北久太郎町一丁目野原林之助の所有に係る三島郡五領村大字前島癈彈工場は去四日午后三時轟然爆發し百數十名の死傷者を出したる大椿事あり▲大阪南區高津北の町田原勘二郞方止宿羽田俊幸（二一）は天王寺北山町淨土宗學林第六七敎校の三年生なるが放蕩に身を持崩したるため竟に此程退校を命ぜられたり流石の俊幸故鄕に歸ることもならず困じ果てゝ一計を案じ何處よりか寫眞用劇藥を持來り少しばかりそれを飲み大聲擧げて苦み出せしかば田原方では大に驚き介抱すると俊幸苦しげな息をつき何卒自分の姉の嫁ぎ居る和歌山縣海草郡西澤村岩橋喜三郞方へ金子持參の電報を打つてくれとのことに田原にては兎も角もと天王寺署に急報し警官醫師出張俊幸の容態を診察するに彼の藥は死なれるほどの劇劑ならず全く狂言自殺なること判明したれば散々叱られたり▲有名なる京都市本能寺の住職桃井日威は下谷區谷町八丁目久本寺の増田日繼、西高津寺町妙敎寺の信隆日秀の兩名を相手取り七千六百五十八圓餘の精算金辨償の訴訟を提起したり其の理由は右兩名は三十四、五、六年頃本能寺移轉の際精算人たりしに帳面を僞り前記の金額を私用し費消したり云ふにあり

投書かご（いしほんさくた）

▲梧桐夢半にして金風の颯々たるに遇ひ世の榮枯を唧ち秋草の露の命を持ち兼ねて早く死刑の宣告を待てる、いぢらしい姿を見るにつけ多感の士には垣根に咽ぶ虫聲を訴ふるが如く恨むが如く聞ゆるであろう（大■濱子）▲日本館の都さんあんたは古狸だ杯とご自分に仰しやるが古狸でも色とか戀とか言ふもの分りますかねオットこりや失敬分つてこそ何とか言つたつけアノそれ何んとか川さんと……夫れや昔の事だが今はどうです（△△子）▲孟家屯で音に名低き瓢亭に其人ありと知られたるお歌裙より高襟居候の何淵と丸髷姿で白晝手を引き合つて散歩したりお客の前で自慢そうに惚氣を云ふたりするとお前の人氣に障るよ（注意生）▲祇園閣のお濱と一筆とは近々の內に內地に歸るそうだが多分瀛船てはあるまい袋て歸るだらう（木片生）▲一筆が內地へ歸られたら兩手に花の色男の吉野さんは候補者を作るか又はお繁獨で辛抱をるかどうだらうねい（好男子）▲公主嶺帝國館の貞子は多年の思ひが屆いて或曹長と新婚旅行て內地へ歸つたとは目出たし々々（凌雲子）▲滿洲で出來たのを滿妻と云ひ天津で粘り着いたのを天妻といふそうだが天妻とは旨い思ひ付き家內に風波の起つた時主人は丁度暴風や水害などに出喰した時のやうにエヽ天災だと斷念めろなどは乙だ（枕場生）▲公主嶺の或サーベルさんは萬直しの國子否今の鶴子と淺からぬ誤關係だとさ（燕湯生）▲新市街の人氣者雜貨店は加藤洋行食料品は平川洋行日本小間物は熊谷商店料理屋は萬直しウマイ物屋は明ぼのそばやは更科床屋は松重女髮結はお政菓子屋は日本饅頭旅館は清林館（與可樓）

▽露國の官僚と民黨△

露國の官僚派には、世界の事情に通ぜざる頑固連最も多く、中には公然日本に復讐せよと論ずるものがある▲其間に立ちて、更に角日露協約を締結した外務大臣イズウオルスキー氏は、確に傑出したる人物と云はねばならぬ▲露國の民黨は最も日本に好意を有し、中には公使館員に出逢ふと、御座て祭國の改革も成り、國會も出來たと禮を云ふ者があるさうである

ま、事の樣に政岡お膳立て　清風
雲助と云ふ姿にて蚊遣りなり　五葉子
午下り唯洗濯の音斗り　同
皺くちやになつた新聞女房讀み　白馬
姉さんが零れた飯を喰ひ歩き　同
鰹節をガラリ投出手をなめる　同
牛玉は便所の外で欠伸なり　同
綿帽子取ると耳まで眞赤なり　同

牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相場　自十月十三日至十月十九日迄
一軍票又ハ圓銀壹圓付ニ
一本邦通貨　金　壹圓〇壹錢
電話問合ヲ謝絕ス

華客各位御中
大連　田川村洋行
（電話二三三）

廣告

營口出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆
竹島丸　十八日午前六時出帆大連芝罘門司神戶行
乘客ハ前晚六時迄ニ御乘込相成度候
營口丸　廿四日午前太沽芝罘長崎門司神戶行
御乘客ハ今午前迄ニ御乘込相成度候
乘船切符發賣ハ出帆前日午後五時迄
代理店　旗昌洋行（電話二六番）

瀛船營口出帆
摩耶丸　十七日入港豫定
鎮海丸　十八日入港豫定
音羽丸　廿一日入港豫定
御代丸　二十八日入港豫定
千球丸　二十日入港豫定
松茂洋行　電話（五三、五七）

瀛船出帆廣告
長楠丸　十七日天津行
萬成源丸　十六日芝罘香港行
代理店　東和公司（電話四一〇番）

大連出帆廣告

日本郵船會社瀛船出帆
酒田丸　七日正午門司神戶四日市橫濱行
大棧橋より發船可致候
日本郵船株式會社大連出張所（電話貳壹〇番）

大阪商船會社瀛船出帆
大義丸　十九日正午門司神戶大阪行
鐵嶺丸　二十二日正午門司神戶大阪行
大棧橋より發船可致候
大阪商船株式會社大連出張所（電話貳貳零番）

松茂洋行船舶部瀛船出帆
音羽丸　十八日午後四時營口行
乘船切符は吉野町大山通り角〇〇ト運送店にて發賣可致候
大連市監部通り二丁目（電話二五九番）
河邊商店大連出張所松茂洋行

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓
本店　橫濱
支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
里昂　紐育　桑港　布哇　孟買　香港
上海　漢口　天津　北京　大連　旅順
奉天　遼陽　芝罘　鐵嶺　安東縣　長春
（寛城子）
橫濱正金銀行牛莊支店
電話十番（支配人室）（百八番事務室）

正隆銀行
營口元神廟街二八六
電話（支配人室三四一　事務室二一〇）

隆記洋行
總經理人　深水十八
西分店　西營口老爺閣東小紅樓西側　電話四

大連彩票
頭彩壹萬四
第二十次　大連彩票
開彩十月二十六日
裕和盛（電話八壹）

澤龜發賣元
宅合名會社大連支店
高等洋酒
食料品
鎌倉ハム新荷着

下痢症の理想藥
醫學博士伯村先生創製の下痢腹止めヘルプは
▲下痢を止め且つ胃中の化液を補ふ
▲腸胃の消化を助け健全安固ならしむ
▲高價藥ハ腹痛を以て効驗を速むる
▲堅き效力の如く胃腸を害する虞なし
▲瀛川山田兩博士優効確認の證明せらる

効能
●痢病　●腸加答兒　●赤痢　●コレラ
時候あたり　●水あたり　●食傷　●胸痞
●嘔氣を催す病症　●總て下痢を止め腹痛を治し腸胃を整ふ
ヘルプを朝夕二粒宛服用すれば腸胃を健全にし下痢症に罹る憂なし
定價　拾錢　貳拾錢　參拾錢　九拾錢　壹圓
ヘルプは各藥店にあり無くば本舖へ
本舖　東京日本橋區通四丁目　津村順天堂（振替一六八〇番）
本店　大阪大寶寺町堺筋南（振替三一六二番）
本舖　津村順天堂支店

專業旅館　東京樓
營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉強割引可仕候
高等御下宿は面議廉價御賄可申上候

純良醫藥
工業藥品
著名賣藥
醫料器械
卸小賣
營口永世街
東瀛大藥房
電話一四八番
振替貯金七〇一番
分店　營口新市街本町一丁目
藥劑士　中馬龍造
中馬藥局
營口永世街（通順泰東）

支那松　大角及尺角　二寸板尺寸坂
製材角及板類
鐵嶺　二道溝
公主嶺　奉天
御望に應じ製材御注文可仕候也
北辰公司支店
全出張所

診療ニ應ズ（往診入院隨意）
院長醫學士　松井其四郎
新市街貨來街
營口同仁醫院
電話番號　一七八番事務室　一七一番病室

電話　電鈴　電燈　表示器　避雷針　渡金　電氣用發電機
OK
其他電氣諸機械設計製造販賣事業請負
大阪市東區久寶寺橋松屋町角
岡田電機館
館主　岡田音吉

卸商
大連市伊勢町四番地
渡邊大連支店

森病院
内科外科產婦人科
院長　森鐸
（入院隨時）

ホルマリン石鹸
藤田盛大堂

熱千麥發賣
東省公司

旅館　大和館
永世街第三十四號
店主　前田九一郎

和洋完備
遼東ホテル
大連市信濃町（電話壹參一）

機械製煉瓦發賣
營口煉瓦製造所
販賣所　泰東公司
營口元神廟街（電話一二五）

商會　金二
米穀　食料品　雜貨
旭　澤龜　札幌
大販賣店

石灰販賣
加州

日本朝鮮白米
其他雜穀
澤龜酒　醬油　味噌
魁酢　鑵詰　東京澤庵
其外乾物類一切
營口　大原洋行（電話）

鐵嶺　高砂ホテル

日本旅館
高等下宿
店主　三野傳藏（電話一三〇）

土木建築請負
煉瓦　石材　石灰
及各種建築材料
大連　鐵嶺　公主嶺　長春　奉天　遼陽
飯塚工程局（電話一六五）

御席　御料理
鐵嶺　門外
醉花園

專業旅館
室内清潔
丁寧ノ親切
清林館
營口新市街　電話三〇一番

新荷廣告
〇大塊石炭及無煙炭
〇亞鉛板及洋釘
〇木炭
〇セメント
〇日本白米
〇石灰
材木商
營口　喜久洋行（電話三一四）

盛進商行
牛莊新市街（電話二十番）
振替貯金口座一〇一九〇番
貴婦人用肩掛
東都之流行
紳士用首卷
ピン各種

高等旅館
松華ホテル
鐵嶺西門外火神廟

東都最新流行の
金製指環
新輸入現下流行の
金側時計

時計貴金屬美術品商
萬松號
大連市大山通二丁目

物價

營口爲替相場（十月十五日）

正金銀行一覽拂（百圓ニ付）

內地	九八圓
天津	一〇四圓四分ノ一
上海	七一兩
芝罘	一〇四圓二分ノ一
銀塊相場	廿八片八分ノ七

同通貨相場

正隆銀行	受	拂
銀貨（百）軍票	九〇、五〇	九二、〇〇
金貨（圓）軍票	一〇一、〇〇	一〇一、八〇
「ルーブル」ト軍票	一〇八、九〇	一〇七、五〇
露銀ト軍票	一〇五、五〇	一〇七、〇〇

▲營口物價▼

●大豆豆粕

▲豆粕	一兩七
▲新豆	九兩五

●西陣冬之織物（木村呉服店）

着尺之部

	自	至
緋洋縮緬	二五円	四〇円
好貴御召	二〇	三五
紋織御召	二〇	三〇
亂通御召	一八	三〇
高機御召	一七	二五
變御召	二〇	三五
縮緬無地一反	一〇	二〇
仝友染仝	一〇	二〇
白給子九寸仝	一五	二五
帯地	五	一五
專多織	一〇	二〇
厚板織	三〇	八〇
黑及色朱子	五	一五
朱珍織	八	一五
本小袖御色紋合		
帯地之部		
綴之錦	五〇	二〇〇
仝通シ	五〇	一五〇
厚板織	二〇	八〇
是服織	二〇	五〇
朱珍織	一〇	四〇
唐多織	二〇	六〇
紗珍織	二〇	八〇
黑及色朱子	三六	一五

●關東冬之織物

	自	至
帶地男物七寸 博多織	三	一五
厚板織	五	二〇

着尺之部

	自	至
御召縮緬	四	一五
琥珀御召	三	一七
伊勢崎銘仙	五	一五
結城紬	七	三〇
縞糸織	一〇	二〇
浮貴織	一〇	二〇
諸糸織	一二	二〇
諸糸節織	一〇	一八
色部內及高取合一反	六	一〇
色長古屋仝	五	一〇
羽二重本六丈紅絹仝	四	一〇
綿布之部 双子織	二	四
綿結城	三	五
綿琉球	三	五
綿風通	二	七

●木材相場

杉丸太一丈（末口才）	五五
仝二間（仝）	六〇
仝三間（仝）	七〇
米丸太一丈二尺（仝）	五〇
杉押角一丈二間（仝）	六〇
杉板四分（一坪）	一、一〇〇
仝大分（仝）	一、三〇〇
仝八分（仝）	一、八〇〇
松板六分（仝）	一、二〇〇
仝八分（仝）	一、七〇〇
仝正一寸（仝）	二、一〇〇
縱板四分（一坪）	一、〇〇〇
仝八分（仝）	一、五〇〇
柵板仝（仝）	同
杉大角物（一石）	七、〇〇〇
松丸角（仝）	六、五〇〇
檜蓋檜（仝）	六、〇〇〇
北海道松（仝）	五、〇〇〇
杉貫大（十枚）	二、六〇〇
仝中（仝）	二、〇〇〇
松垂木（一束）	一、四〇〇
仝正角（仝）	一、二〇〇

注意　以上は並物を標準としたる價格なり

●木材（秋田商會支店）

杉四分板壹間並七壹坪	一、一〇〇
全六分板無節	一、五〇〇
全並上	一、三〇〇
全無節	一、八〇〇
松壹寸參分板並上	三、二〇〇
松正壹寸板	二、二〇〇
松並壹寸板	一、七〇〇
松八分板	一、六〇〇
松六分板	一、一〇〇
縱壹寸參分無節	四、五〇〇
縱八分板並品 耳揃	一、四〇〇
縱四分板	一、〇〇〇
杉板制貳間正八分壹坪 壹枚	二、二〇〇
杉大貫	二八〇
杉中貫	二四〇
杉小貫	二三〇
杉木摺	五五〇
杉垂木正寸六分角	一八〇
全正寸八分角	一五〇
全正寸二分角	一三〇
全正壹寸角	一一〇
松敷居並品壹屑	一、六〇〇
全正角	一、九〇〇
松垂木並品	一、八〇〇
全正角	一、四〇〇
杉大角貳間尺〆 上 下	七、〇〇〇
杉挽小角貳間一才 上 中	一〇、〇〇〇
杉押小角一才	〇、〇九五
松大角貳間尺〆	八、五〇〇
北海道松角全	六、五〇〇

●青商綿布綿糸綿花相場（〇印は日本品）

〇十六番手綿糸（一梱ニ付）	一〇、二五〇
〇十六番手富士全	九、七五〇
十六番手瓦斯全	八、一〇〇
全彩船全	七、八〇〇
全人扭茶全	七、八〇〇
全紅人竹全	七、五八〇
六丈金寶星全	六、七五〇
全燈塔全	六、七五〇
〇〇十六丈大小英花旗布（一匹ニ付）	四、一五〇
全一號二甲全	四、〇二〇
全三號二甲全	四、〇三〇
全一號八馬全	三、九五〇
全二號八馬全	三、八五〇
全獅球全	三、八五〇
十五龍印打布	四、九三〇
全老雙龍全	四、八三〇
全大小英全	四、五八〇
全七熊星全	四、四八〇
八丈豐裕坎布	四、〇〇〇
同興堂大七布（百尺ニ付）	一、九二〇

綿花（百斤ニ付）

永孚全	一、八八〇
永福原全	一、八六〇
廣大和全	一、八六〇
公大昌全	一、八六〇
和順長全	一、六〇〇
大裕清水布（一匹ニ付）	九、二〇〇
益成全	八、二〇〇
九華棉花（百斤ニ付）	一、八八〇
雙錦全	一、八八〇
陳元七全	一、八八〇
東京全	一、八六〇
四京全	一、八六〇
雙豐全	一、八五〇
鴻大全	一、八四〇
朱羅把全	一、八五〇

（新市街加藤洋行調）

英國製中折帽	四、五〇〇
同	八、〇〇〇
梁山高帽子	四、〇〇〇
同	六、〇〇〇
島打帽子	一、八〇〇
同	二、五〇〇
ラクダ毛防寒帽	三、〇〇〇
ラッコ毛皮帽	五、〇〇〇
同	三、〇〇〇
スコッチ靴下打	四、〇〇〇
同	三、〇〇〇
全長靴下全	三、〇〇〇
カシメン手袋全	八、〇〇〇
スコッチ手袋全	四、〇〇〇
同	八、〇〇〇
皮手袋全	二、〇〇〇
同	四、〇〇〇
英國製毛メリヤス上下組	三、五〇〇
同	六、〇〇〇
全ジヤケツ全	四、〇〇〇
同	五、〇〇〇
舶來毛メリヤス全	四、〇〇〇
同	六、〇〇〇
白毛布二枚續	六、〇〇〇
同	二、〇〇〇
色全全	一、〇〇〇
同	二、〇〇〇
舶來綿全摸樣八	六、〇〇〇
同	三、五〇〇
ネル地膝掛	一五、〇〇〇
同	一七、〇〇〇
ラクダ膝掛	一五、〇〇〇
同	二五、〇〇〇
モヘル	一四、〇〇〇
同	四〇、〇〇〇

食料品

羽根蒲團	一〇、〇〇〇
同	一八、〇〇〇
全繻子地	二〇、〇〇〇
同	三〇、〇〇〇
クッション	一五、〇〇〇
同	二二、〇〇〇
菊正宗（三九入）一樽	一八、五〇〇
全瓶詰（四打入）一函	一四、五〇〇
全進物用一打入全	四、三〇〇
峰帽麥酒全	九、五〇〇
西ペシャルラ全	二、五〇〇
全卜恒麥酒全	[illegible]
札印麥酒葡萄	一九、五〇〇
スト（四打入）全	[illegible]
イト（七打入）全	三、〇〇〇
孔雀印ヤノ水全	四、五〇〇
三ツ矢印シャン全	五、五〇〇
ペンサイダー	[illegible]
ヤマサ醤油一樽	三、八〇〇
鶴印ソース（六ダース入）一函	三、〇〇〇
和ソース（六ダース入）一函	七、五〇〇
バタ（一磅罐百個入）全	五五、〇〇〇
グリーンピース全	一九、〇〇〇
筍（三十罐入）全	五、〇〇〇
松茸（四ダース入）全	九、〇〇〇
百合印蒲鉾全	三、五〇〇
鮑（四ダース入）全	一五、〇〇〇
ビスケット（五十磅入）全	一〇、五〇〇
奈良漬三斤罐（四ダース入）全	九、五〇〇
茶 一樽	一四、〇〇〇

雜品

洋酒類罐箱入一立方呎	三、〇〇〇
全一打入一箱	八、〇〇〇
醬油酢類二斗樽一樽	三、〇〇〇
全一斗樽全	二、〇〇〇
砂糖一五〇磅一袋	三、〇〇〇
毛布大一束	三、〇〇〇
刻昆布一箱	一、五〇〇
海參干鮑鱶鰭明骨一担	五、〇〇〇
魚類漬物四斗樽一樽	五、〇〇〇
野菜二斗樽全	三、〇〇〇
全アンペラ廿五枚一卷	二、五〇〇
△麻袋五〇〇枚一梱	一五、〇〇〇
マッチ安全一箱	一〇、〇〇〇
マッチ硫黃全	一二、〇〇〇
△石油全	三、〇〇〇
煙草紙卷大全	八、〇〇〇
全小全	六、〇〇〇
木炭一俵	一、〇〇〇
石炭一噸	八、〇〇〇
△獸骨獸角獸蹄一担	三、〇〇〇
罐詰瓶詰類一立方呎	一、五〇〇
硝子製品全	三、〇〇〇
板硝子百平方呎入一箱	五、〇〇〇
陶器磁器類一立方呎	三、〇〇〇
紙類全	二、〇〇〇
セメント一樽	八、〇〇〇
洋灰一俵	六、〇〇〇
鐵板一卷又へ一梱	五、〇〇〇
亞鉛板一箱	四、〇〇〇
△トタン板波形全	三、〇〇〇
△全一束	[illegible]
△鐵管鐵棒故鐵類一担	三、〇〇〇
葉類百十二磅一箱	四、〇〇〇
小桶一桶	一〇、〇〇〇
大桶全	[illegible]
十本入一箱	一〇、〇〇〇

●保管料（松茂洋行）

米大豆及雜穀 一ヶ月定一担	二五
豆粕一枚	〇五
參粉五十磅一袋	一、〇〇
綿花（支那大）百八十斤內外一俵	八〇
全（全中）百廿七斤內外全	六〇
全（全小）六十斤內外全	四〇
全（亞米利加又ハ孟買壓搾梱）一立方呎	一、五〇
綿糸（孟買支日本四〇〇磅）一俵	三〇
綿布一立方呎	一、五〇
綿毛織麻織衣類全	二、五〇
清酒四斗樽一樽	五〇
全二斗樽全	三〇

（一）右各種の頭部に△印ある貨物は野積とす（二）輸入手數料未濟品の保管料は本邦の習慣を申受く但し港場後十日間は保管料を要せず（三）二十五日間未滿の保管料は半ヶ月分申受く（四）高價品の保管料は毎月從價千分の五とす（五）此表に規定なき物品の保管料は其價格に基き之を定む（六）受寄物の內容並に狀態に對し當公司は其責に不任（七）當公司は火災風水災其他暴力不可抗力の災厄に依り盜難又は鼠害入氣候の變遷及物品の性質若くは荷造の不良に因り受寄物に生したる損害に對し賠償の責に任せず

●石炭類（齋久洋行）

赤銀口上塊炭一噸	二一、五〇〇
福井粉炭全	一七、〇〇〇
無煙炭百斤	一、〇〇〇
木炭八貫入一俵	九〇〇

●亞鉛引板類

浪板廿八番六尺一枚	九七〇
全七尺全	一、一〇八
全八尺全	一、二五〇
平板全	[illegible]

●洋釘類

七分五厘一インチ百斤	一〇、五〇〇
一インチ二分五厘全	九、九〇〇
一インチ半全	九、三〇〇
一インチ七分五厘全	九、八〇〇
二インチ全	八、五〇〇
二インチ半全	八、八〇〇
三インチ以上全	八、四〇〇

●穀類

肥後一等白米壹石	二三、〇〇〇

市內配達は苦力錢申受候

紙類（新市街見本洋行）

美濃紙大印（一〆）	七、〇〇〇
全松印	六、五〇〇
全竹印	六、〇〇〇
全梅印	五、五〇〇
支那半紙大印	三、三〇〇
全金印	三、一〇〇
全銀印	三、〇〇〇
全福印	二、四〇〇
全生漉半紙上	四、〇〇〇
全並	三、五〇〇
六寸半切大印	三、三〇〇
全金印	三、〇〇〇
全福印	一、六〇〇
大七九紙生漉松印	一、七〇〇
七九全竹印	一、四〇〇
全梅印	一、三〇〇
墨紙生漉上	一、六〇〇
全中	一、五〇〇
障子紙（一束三百六十枚）	三、五〇〇
越前奉書（一束百八十枚）	一〇、〇〇〇
甲ノ內（全）	四、五〇〇
仝（全）	四、八〇〇
美濃罫紙上（一千枚）	三、五〇〇
全並（全）	三、六〇〇
全半罫紙上	二、五〇〇
半紙罫紙上	一、五〇〇
全並	一、五〇〇

▼大連物價▲

●洋鐵類（三重洋行支店）十貫目
スイツル丸鐵
仝 角鐵
仝 平鐵
丸、角、平、鋼鐵
[illegible]

●セメント類
淺野セメント
大阪仝
外國仝
火山灰
胡粉 一叺入
[illegible]

●釘又及苧莇
[illegible]

●洋釘類（壹百斤）
[illegible]

●土丹引板類
[illegible]

●鐵板類
[illegible]

●洋酒
[illegible]

▼奉天物價▲（小洋）
[illegible]

●穀物（每斗）吊文
[illegible]

●錢市（十月十一日）
現銀元 十吊九六〇
[illegible]

●味噌
[illegible]

●漬物
[illegible]

●醬油
[illegible]

●酢
[illegible]

●清酒
[illegible]

●麥酒及洋酒
[illegible]

●飲料水
[illegible]

●鑵詰類
[illegible]

●乾物
[illegible]

●茶
[illegible]

●洋麵
[illegible]

●勞働者賃銀一般
一日勞銀 日本人 支那人
[illegible]

▼鐵嶺物價▲
●穀類
[illegible]

●木材（小西邊門外東亞洋行）金票
[illegible]

▼長春物價▲
大豆 一石
小麥 仝
[illegible]

▲撫順物價▼
支那大豆 日本升一石
小豆 仝
[illegible]